

大正四年四月起

日誌

青年寄宿舍 文藝部

馬念本學期に於ける委員を記せんに

食事 尾内君

會計 中林君

衛生 石川君

運動 小野君

園芸 日野君

文藝 中島

四月一日 曇天驟雪来る 午後三時より稀なる快晴となる 現今の舎生左の如し

副舎長 佐藤秀太郎君

第一号室 藤岡鉄治君 山崎芳雄君

第二号室 小野榮治君

第三号室 野口 静君

第四〃 木村政太君 尾内正太郎君

第五〃 日野壽作君 亀井専次君

第六〃 小西初司君 鷹野繼次君

第七〃 門野吉郎司君

第八〃 青木金作君 石川昂君

第九〃 北村卓爾君 中林忠七郎君

第十〃 小河原義雄くん 中島頭三

第十一〃 多田邦衛君

第十二〃 加茂正次君

月次会に於て多数決の結果四月始より十月終りまでは日、火、木、土の四回其の他の時は従前の通り日、水、金の三回湯を立つる事を決定せり。

四月三日 曇天 多田、日野、青木の三君及自分は本日午後六時半出発の汽車にて忍路に鯉漁を見て午後十二時近く帰舎せり。

四月五日 去月二十六日より忍路臨海実習所にて実施研究中なりし野口静君、本日帰舎せらる。食事は明六日より。

野口君本日より、圍碁舎内に於て流行し、朝は八時頃より夜は遅き人は十二時にも至る、就中熱心なるは小野君なり。

四月六日 曇

■月卅日より忍路臨海実習所にて実習中なりし藤岡鉄治君、本日午後四時頃帰舎せらる

四月八日

午前九時より各科学期の始めの注意並びに第二學期試験成績につき注意あらたる。

四月十三日 本日午前門野君學術実習の為に出発せらる。食時は朝一回のみ。

四月十四日 本日より火鉢の使用は亀井、北村、小野三君の室

四月十八日 一昨十七日メ切の筈なりし「楓林」第二号の原稿は投稿者少く、本日編輯したる時に漸くメ切たり。

四月十九日 本日楓林第二号を發行す。全頁数六十余。実に振はず投稿者僅々十名内外なりし。野口君本日より火鉢の使用を止めらる

昨日曜は晴天なりし為運動部はテニスコートを整理せしが本日よりテニスを始めたり。

本日より加茂君火鉢使用。

四月廿日 夕食後委員会を開く。月次会を二十四日に開くことその他夜門限を十時半をす
る事を決議せり。

春季部屋替へは来二十五日に行ふ事をせり。

屋根屋来りて修理し居たり。

四月二十三日 本日は豊職三人を雇い修理をなさしむ。

四月二十四日 午後三時頃豊の修理を了へたり。春季室替への組合せを發表され且抽籤の結果左の如く定まる。

第一 小野君 山崎君

第二 日野君 尾内君

第三 木村君

第四 亀井君 野口君

第五 中島君 青木君

第六 北村君

第七 門野君 (移ラズ)

第八 多田君

第九 鷹野君 藤岡君

第十 石川君 中林君

第十一 小西君 小河原君

第十二 加茂君

午後七時頃より月次会演説会を開く。

當日の委員は山崎、青木、藤岡、小河原の諸君、辨士は小河原、中島、北村、小野、佐藤の諸兄。早々より道廳技師柿崎氏出席せられ八時半頃より約一時間半に渡る有益且興味ある講話をせらる。尚宮部舎長も御出席ありたり。へボノケ等の余興をなし十一時閉会す。

四月廿五日午前抽籤の如く室替へをなす。

第四 (亀井君) 号室は本日より火鉢を用ゐず、第五号室も同じ。

四月廿八日 午後六時より第十号室にて決算をせり。

四月廿九日 午後七時より競賣をなす時悪しく会するもの八九名に過ぎず。

雄辨	十二銭	中島君
太陽	十五銭	野口君
朝日	二十銭	山崎君
万朝	十六銭	青木君
タイムス	二十銭	小河原君

本日より各室とも火鉢の私用を止す。加茂君は引續き火鉢を使用せらる、後より北村、中林、石川君よりも火鉢の使用を申込ありたる。

五月三日 久しく実地研究及調査の爲め旅行中なりし門野君は午後三時頃帰舎せられたり。

五月四日 中林石川加茂君本日より火鉢の使用をやめらる。

五月八日 湯殿並びに鉄棒の修繕にかかる

五月十日 鉄棒は本日完成せり、今回は舎の西側に北向につくりたり。

五月十五日 土 各室とも春季大掃除をしたり。

午後七時半頃より委員会を開き卒業生諸君送別会等に就き相談せり。新に造りし浴槽は本日より用ふることとなれり。

五月十九日 水曜 円山の観櫻は昨日なす筈なりしも小雨のため本日に延期さる。十四五名午前五時過出発心地よき■■■をなす。

先円山神社に詣つ櫻花今正に爛漫たり。御手植松の所にて休憩をなし別途帰舎せしは七時なりき。曾て新聞紙にても見えし如く円山の櫻は病菌の爲非常に弱りしものも見受けられたり。

五月二十二日 夕方より月次会を兼ねて多田門野両君の送別会を開く。当日の委員は日野亀井加茂の諸兄。宮部先生は晚餐会を共にせられ、石澤氏は八時頃より御出席ありたり。晩の食事はライオンよりフライシチュウ、カツレツ、ビフテキ、ライスカレーを持来らしめ、シトロンを以てビールの代用としたるが、如き可否は別として未だ例のなき事なり、元舎生篠原小堀両君もみえたり。

祝辞	舎生代表	亀井君
〃		山崎君
〃		小野君
〃		藤岡君
〃		北村君
〃		佐藤君
〃	元舎生	小堀君

次に石沢氏及宮部舎長の訓辞せられ後卒業生二君より答辞あり開〔会〕を終へしは十一時頃なりき後余興として擬国会開かれしも一部の人を除き概ね■■■合的に見受けられたり。

十二時散開 例月と異り極静かに会を閉じらる。

五月二十三日 日曜曇 午前■時植物園にて送別記念撮影をなす。

五月二十九日 本日午後競賣をなす筈なしりも外出者多きため延期せり。

五月三十日 日曜 午前決算をなす普通九円十九銭なり。

昼食後競賣をなす。

太陽 十五銭 小野君

雄辨 二十銭 多田君

万朝 二十二銭 藤岡君

朝日 三十五銭 日野君

タイムス二十八銭 多田君

六月四日 北村君の火鉢使用は本日迄

六月十一日金 北村多田二君は徴兵検査を受二君とも合格したり。

六月十三日 針金にてテニスコートの線を引きたり。

六月十六日 学年試験始まる。

六月二十二日火 九時より図書館に於て大学の記念式を挙げらる。

六月二十八日 決算をなす 普通八円二銭五ノ也

六月三十日 午前九時過青木君深川に向けて出発、午後藤岡君帰省さる

七月一日 木村君は実習の為め室蘭へ、尾内君は同じく増毛へ出発。水産製造科を卒業せし門野君は午後九時半発にて帰省せられたり。

七月三日 午前十一時小河原君実習の為め砂川へ出発せらる。

七月五日 水産科野口君は午前十一時頃発にて実地演習の為め忍路へ出発せられたり。

午後五時頃学年試験成績発表さる

七月六日 図書館にて卒業式举行さる。

七月十一日日曜日多田君午前九時十四分発にて出発せらる。

七月十七日 佐藤北村両君は午前九時頃数日の旅行に出発されたり。

七月十八日 木村野口君は昨夜遅く帰舎、木村君は午後四時過再出発

七月十九日 早朝野口君帰省さる。一昨日より食事は十七日の一日

七月廿八日 決算をなす普通七円四拾銭

七月廿九日 亀井君小樽新聞札幌支社主催の余市嶽登山團に加り正午出発せらる

七月卅日 内田〇〇より文藝部へ金壺円寄附せらる。

八月十九日「ビスマルク」を購入す

八月廿八日 決算をなす

九月五日 林学一年安達要蔵君入舎せらる。食事は明日より

全六日 林学実科一年岩下幸雄君午前入舎せらる

全七日 岩下君幌内へ

全八日 水産科一年渡辺尅君、林学実科一年高田稔君、〇〇一年菅原憲吾君本日入舎せらる。食事あり。

全十一日 渡辺君は東京水産講習所へ入学許可の為午後九時半の列車にて東京に向はる

〃 十三日 土木工学実科一年逸見尚義君入舎せらる

〃 十四日 本日帰舎の諸兄は山崎、石川、小河原、日野の四君なり。

〃 十五日 十三日授業上の注意、十四日始業式及宣誓式ありたる。愈本日より授業開始せらる。

夕食後、新舎生七名宮部舎長に挨拶に行く

〃 十六日 夕食後寄宿にて郵便切手賣捌の件につき旧舎生相談をなし寄宿に適せざること賣捌の困難なること等の理由により否決す

〃 十八日 新舎生歓迎会を開く。当日の委員は北村、小西、中島、野口の四君。七時より開會その順序は

- 一 開会の辞
- 一 総代歓迎の辞
- 一 有志同上
- 一 副舎長同上
- 一 新入舎生挨拶
- 一 来賓演説
- 一 舎長訓辞
- 一 閉会の辞

九時五十分頃より茶菓を喫し乍ら会談す

尚委員改選の結果左の諸君当選す

- 一 会計 木村君
- 一 文藝 亀井君
- 一 運動 山崎君
- 一 食事 青木君
- 一 衛生 鷹野君

余興二三の後寄宿舎の歌の練習をなす

十二時二十分散会

本日中村君午前十一時頃帰舎せらる

青年寄宿舎寮歌 鷹野継次君作

一 鵬程万里北溟の 滄浪叫ぶ扶桑の地

北長江の水長く 肱野は沃えて山高し

天の顔容地の姿 あな美はしの国なれや

二 秋風繁く胡笳之声 野末に狐兔の迷ふ時

銀雪霏々とふり積り 寒月の月弥冴えて

鏡と凍る氷雪は 男子砥礪の器なれ

三夫文明は北進し 光はさしぬ十一州
渺茫千里の北海に 蓋世の氣をは琢くへく
肌を透す朔風に 斗南の翼鍊ふへし
四經綸胸にあふるれば 魍魎遂に何かせん
清流の朋戈とりて 共に結びし健児の舎
自治共同の礎は 誓約こゝに二綱領
五創立此方十七年 自由の声と諸共に
訓へ傳はるこの叫 憧憬暮す益良夫が
踏み行く道は一筋に 磁氣の北斗の向ふこと
六星霜は移り世は変り 今年の御典は紫宸殿
千代万代の動きなき 国の御柱弥高く
花橘の色添へて 匂ふ左近の桜花

[本年十月廿日 第十七回紀念会にて歌う…編集委注]

九月十九日夕刻競賣をなす

- 七月太陽 七錢 佐藤君
- 八月 〃 〃 鷹野君
- 八月タイムス 四錢 小野君
- 〃 小樽 十錢五厘 佐藤君
- 九月朝日 十四錢 中島君
- 〃 讀賣 〃 青木君
- 〃 タイムス 十三錢五厘 小西君

九月廿日 朝中島君ヨリ引継グ

夜十一時ヨリ佐藤君網走地方へ修学旅行ノ為出發セラル

廿三日 北村君忍路地方へ旅行セラル 朝食セラル。此頃寄宿前庭ヲ修理中ノ処、佐藤、北村両君不在トナラレ、舎ニ関スル事共ヲ農実三年諸君ニ託セラレタリ

廿四日 天気宜シキ為一同大掃除執行

本日水産科ニテ秋季大相撲アリ

廿五日 北村、佐藤両君帰舎セラル。本日第三回雑誌募集ス。メ切ハ十一月三日トス。

廿九日 夕決算ヲナス 意外ニ安ク一人前約十七錢ナリ

卅日 夕競賣ヲナス 價及品目次ノ如シ

- 太陽 (九月分) 二十錢 尾内君
- 朝日 (十月分) 二十錢 木村君
- 讀賣 (〃) 十七錢 管原君
- タイムス (〃) 十三錢 高橋君

新タニ雄辨特別号及趣味修養國民事典ヲ買入ル

十月十一日 月曜

本舎庭球部ハ予科三年有吉ト炭礦会社コートニ於テ試合ヲヤル。敵ニハ学校選手モ居タルコトトテ敗戦ニナリタレ共、当方モヤ、ヨク戦ヒタリ。来ル十五六日ニハ庄内館トモヤル筈ナリ

十月十三日 水産科一年級生、小松佐一君入舎セラル。

十月十四日 木曜日 晴後曇リ

文武會ニテ新入生歓迎会ノ為、野幌林業試験場へ遠足ヲ催シ 舎生殆ンド参加 マラソン競争ヲ厚別駅ヨリ始ム 舎生岩下君ハ入賞セラル

十六日 土曜日

先発体トシテ佐藤山崎両君九時ヨリ出発、盍シ本日晴天ニツキ 舎生舉リテ定山溪遠足ヲ企テシガ為ナリ 七時頃ヨリ八時頃マデニ後部体モ到着 一同苦ンデ運び来レル糧食ニ痛快ナル 腹鼓ヲ打チ 以右夜半ニ至ルマデ蠻声ヲ鍊ル

十七日 日曜日

非常ノ好天気ナリ 朝ノ内ハ碁ヲ打ツモアリ 画ヲ書クモノアリ 湯ニ入りテ騒グモアリ 十時頃食事ヲ始メ十二時少シ前ニ出発帰途ニツク 案外道ハ宣ク 昨日ノ如ク疲レズ 夜七時半頃ニハ全部帰舎シテ疲レシ足ヲナツカシキ部屋ニ休メ居タリキ。

因ニ岩下君ハ前日ノ競争ノ為足ヲ痛メテ歩行困難ニテ 山鼻ヨリ引返シタルハ惜シカリキ

十月廿六日

桜星会ニテハ廿三日ヨリ旭川方面へ旅行シ本日ハ休ミナリ。又実科水産科等ハ昨日発大演習ノ為ニ休ミナル故ニ午后ヨリ部屋換ヘヲナス

此頃、記念日ノ前ニ付キ各部相談會多■アリテ各自趣向ニ頭ニコラス様ナリ

廿五日ヨリ日野、小野内君炭使用、廿六日ヨリ小西、小河原、北村、青木、小松君以外ノ諸君炭使用 廿八日ヨリ小河原、北村君炭使用

十月卅日 土曜日

本舎創立十七回紀念會ヲ開ク。會ノ狀況次ノ如シ

一、開會之辞

佐藤君紀念會ノ意味、紀念會ニ対スル吾等ノ感想、将来ニ対スル覚悟等ニ就キ談ゼラレテ壇ヲ下ル

二、諸況報告

1) 文藝部 去年十一月ヨリ今月マデノ購入ノ書籍寄贈ノ書籍部費、支出等ノ報告

文芸部委員ノ希望ニ就キ報告ス

2) 運動及衛生部 委員鷹野君 運動部ノ過去一年間ノ年中行事ニツキテ語ラル、特ニ本年度ハ、競技多カレシトカ、柔剣道寒稽古出席者多カリシ等ニツキテ特説セラル 旧ノ如ク盛大ナルコトヲ述ベラル

3) 會計 木村君

(一)總取扱高 一ヶ月取扱高ノ最高最低

(二)食料一人一日金額、最高低、總平均一日一人食料金額

(三)食料品内訳

1)米 最高最低 一日一人ノ額

2)魚 " "

3)雑穀 " "

4)薪炭 5)青物 6)肉 7)味噌 8)豆腐 9)現金買物

(四)食料總額 (五)雑収入 (六)客膳 (七)割当總額 (八)舎費、部費 電燈 木炭(室内用) (九)各種金額百分比 (十)雑収入

4)舎況 佐藤君

1)人事ニツキテ 舎生移動 今細別スレバ入舎生十二名、退舎生十名 現在舎生二十三名 其外森氏ノ他界セラルタルコト等ニツキテ

2)舎の會計

収入 前年繰越高 舎費(十月一当九月マデ)

雑収入 宮部先生ご寄附 計

支出 地代(十月一九月) 税金 火ノ番

修繕費(屋根、風呂、台所、床下、便所、橋、風呂桶) 器具、臨時費 電燈其他ノ補助雑費 總計

現在残高 貯金、現今、貸付 貸付内訳

九月分未納 七月分未納 十月現金買物代

紀念日費用、運動部、石炭、木炭、薪、計

三 舎生祝辞 山崎君

四 舎長祝辞 本舎ノ主義ニツキテ述ベラル

制慾ノアラユル方面ニ大切ナルコト 本舎ノ茲ニ則ル処アリシコト等ニツキ訓話的ナル祝辞ヲ述ベラル

五 来賓祝辞

1)旧舎生總代トシテ林君

2)旧舎生蠣崎氏ノ演説例ノ能辨ニテ、狼ト狼ノ説明ヨリ説キ起シ、共同シ互ヒニ各人ノ欠点ヲ補ヒテ助ケ合ヒテコソ人生ノ円満ノ理想ニ達シ得ルト言ウ事ヨリ、寄宿舍ハ此意味ニ於テ意味アリ。又實際社会ノ縮図タル寄宿舍ハ人生ノ真善美ヲ發現シ得ル所、認メ得ル所ナリ。一度此処ニテ味ヒ得タル所ハ實ニ人生ノ最初ノ經驗ト共ニ又最後ノ經驗ナルコトアリ。故ニコノ三年六年ノ寄宿舍生活ハ大イニ意味アルモノナリ。過去ヲ顧リミテ転タ感慨ニ堪エズ等語ラル

六 諸氏及舎生起立シテ寮歌ヲ歌ウ

七 萬歳三唱 佐藤君発声ニテ宮部舎長萬歳 舎長発声ニテ青年寄宿舍萬歳

八 閉會ノ辞 佐藤君

九 余興

(1)手品 小河原君 (2)大晦日 青年一座 (3)手品 小西君 (4)浪花節 木村君
(5)浪花節 高田君 (7)活人画 実科連 (6)五人男 新舎生一同 (8)手品 鷹野君
(9)喜劇 古株連 (10)未定 亀井君 (11)手品 佐藤君 (12)手品 野口君

右ノ内、小西、佐藤、野口君ノ手品ハ非常ニ宜シク見受ケラレ、高田君ノ浪花節、五人男、実科連ノ飯盛山活人画ハ実ニ手際宜ク観客ノ満足ヲ得タルガ如シ

散会一時過ギナリキ

食事ノ事

委員 青木、北村、尾内、十〔戸〕栗、野口君等ニテ趣好甚ダコリタルモノニテ 年ト共ニ新機軸ヲ出ス勢ハ一層ノ刺激ヲ与ヘテ食卓ニ向ウ人何レモ満足ト言フヨリモ ムシロ驚歎ノ目ヲミハリキ、其献立次ノ如シ

(一) 口取り (イ) キントン (あん、大福豆、砂糖) (ロ) カマボコ (ハ) 干天 (ニ) パインアップル (ホ) シイタケ

(二) 酢のもの (三) 焼魚 (四) コロケ (五) 鯉の味噌汁 (六) 醤油汁 (七) 香物

装飾ノ事

委員 木村、小西、小野、高橋、亀井諸君

会場正面ノ飾リハ馬蹄ニ筆トペンヲ組合セ、星ト旗トヲ以テ彩リタルモノ。天井ハ針金ニテ足場ヲ作り、星ヲ浮かセ其数十七トシテ記念會ノ意味ヲ表ハシタリ。尚計画アリタレ共、時間非常ニ切迫シタル為、十分委員ノ希望ヲ表シ得ズ遺憾ナリキ。

一般ニ頗ル委員ノ熱心ナリシ為、會ノ日発表多ク、時短カカリシニモ拘ラズ、予想外ニ盛大ニテ一同ノ満足此上モナキコトナリ。永ク此日ト共ニ既往ノ歴史ヲ記念シテ、尚此上ニモ寄宿舍ノ益、盛大ニナラシコトヲ扁〔偏〕ニ一同希望スベキナリ。当日ノ客トシテハ、舎長、蠣崎氏、林、上杉、工藤、篠原、小堀君ナリ。諸君皆各々、舎ニ寄附ヲセラルタルハ感謝スベキナリ。

又遠方ノ人、徳田、武田、門野、多田◆諸氏ヨリモ電報及信書ニテ記念日ヲ祝セラレタルモ有ガタキ事ナリ。

十月卅一日 天長節 雪降ル 天気陰鬱ニテ三時頃ヨリ室内クラシ。小西君本日ヨリ炭ヲ使用セラル

十一月十二日

昨日ヨリ小河原北村、日野中島君ストーブタキ始ム

十三日 小野内、中林君 本日ヨリストーブ使用セラル、去ル十一月ヨリ岩下君親戚へ行カル

十一月十五日

本日ヨリ、逸見、岩下君ストーブ使用セラル、夜戸栗君退舎セラル

本夜、御大典祝賀ノ為寄宿舍總出ニテエンゼル館ニ活動写真見物ニ出掛ク。

本日ハ學校公開シタル為見物人朝ヨリ結カケ 校庭ハ時ナラヌ市場ノ景ヲ呈ス。又生徒皆々説明ノ勞ヲ取りシタル為、夕景何レモ疲勞シテ見エラル

十六日 夜學校ニテ提灯行列アル 壯觀ヲ呈ス

十七日 學校ニテ辨論部發會式アリ 野口君出演セラル

十九日 夜月次会ヲ催ス 終リテ北村君送別ノ小宴ヲ催スベキ所、恰モヨク多田君来リ合サレ誠ニ好都合ナリキ。兩人トモ健在ニテ國家為入營セラルル事誠ニ我寄宿ノ誇ナリ

廿日 北村君「自然ノ奇觀」及「壇上ヨリ國民へ」ノ二冊ヲ文藝部へ寄付セラル

廿一日 御大典記念図書購入代 鷹野君ヨリ五十錢受領。夜多田君故郷ニ向ケ出發セラル為、舎生見送りニ行ク

廿五日 北村君、夜九時半終ニ札幌出發セラレ東京ニ向ハル、東京第一師團入營セラルノ筈ナリ見送人ヲシ

十二月五日 朝、予科一年級国枝芳雄君入舎セラル

十二月六日 中島君本日ヨリ炭使用セラル

十二月十四 本日ヨリ第一學期試験始マル

十二月廿一日 雪トケニテ道悪シ

日ニ夜ヲ次イデ苦シミ勉強シター週間モ終リ、今日ハ試験ノ勞ヲ寝テ慰メル人モアリ、外出スル人モアリ 図書室ニハピンポンノ音一層高シ。ゲニ樂シキハ試験後ノ一日ニコソアレ 本日ヨリ亀井、野口、炭廢ス

十二月廿二日 本日ヨリ日野、中島君、炭廢ス

月次会來賓ハ宮部舎長、石澤サン、前寄宿舎在舎生内田氏、演説ハ五分間演説 温和ナル會合ナリキ

朝九時高田君旅行セラル 晝 野口君忍路ニ実験ニ行カル

廿三日 柔道 擊劔寒稽古開始 舎ヨリ十数名通フ

廿四日 朝 辺見君旅行セラル

御大典書籍購入會計報告

購入資金額 一六円三〇

内訳 寄宿舎ヨリノ寄附 三円

特別寄附 二円

文藝部寄附 一円三〇錢

舎生一人前・五〇錢宛

式拾人当り 一〇円

書籍目録 代價

牛肉と馬鈴薯 三〇錢

戦に使して 一円五五錢

栗山大膳 一円五五錢

樗牛全集	一円五〇銭
社會と自分	一円五〇銭
微光	三〇銭
氷川清話	二五銭
残飯	一円〇〇銭
海のローマンス	一円二〇銭
マクベス	一円三〇銭
平凡	三〇銭
椰子の葉蔭	二円四〇銭
生命論	三円一五銭
計 拾参冊	一六円三〇銭

出費者芳名

佐藤君、安達君、逸見君、日野君、岩下君、亀井君、木村君、小松君、小西君、中林君、中島君、野口君、小河原君、小野君、尾内君、高田君、高橋君、鷹野君、山崎君、青木君（順序不同）

第二学期委員左ノ如シ

会計委員	小西君
食事〃	高橋君
文藝部〃	逸見君
運動部〃	安達君
衛生部〃	小河原君

三十日 加藤授君入舎セラル

三十一日 御大典 此紀念スベキ年モ今暮レントス

野口静君退舎セラル